

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1F)

事業所番号	0692600034		
法人名	株ジェイバック		
事業所名	もも太郎さん高島		
所在地	高島町大字深沼191-3		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 2 日	開設年月日	平成22 年11 月1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

厳しい環境の中でも笑顔が絶えない施設を目指して取り組んでいます。外出等ができない状況ですが施設内でできる事で利用者様には満足されていると思っています。これまでの環境を把握しながら利用者様にとって1日1日が無事に生活できるよう心を込めて支援をしている施設です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 3 日	評価結果決定日	令和 3 年 3 月 26 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス感染症の影響で外出も制限され厳しい環境ですが、事業所内で出来るレクリエーション活動を行い、アットホームな雰囲気の中で利用者は楽しんで過ごしています。利用者の思いを大切に食事・入浴・排泄の介護基本のもと柔軟に対応し、これに満足することなく内部研修に力を注ぎ、外部講師による様々な研修で職員は研鑽を積み介護の技術向上を図り、安心・安全に暮らすことが出来るよう、サービスに反映させています。また利用者から「ここに来て良かった」と思ってもらえるよう更なるサービスの質の向上に取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念を掲げ実践に繋げている。また、理念の重要性を確かめる為に個々に面談等を実施している。	事業所独自理念の中にある「人生の先輩として敬う心を持つ」を念頭に置き、利用者には笑顔になってもらえるコミュニケーションづくりが心にかけている。職員は個人目標を立て自己評価し理念を振り返り実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流を大切にして途切れないよう工夫している。また、民生委員の方を通じて施設としてできる事を話をして実践してしている。	年間行事を年度はじめに、民生委員に配布し回覧を通して地域との繋がりを大切に地元からは理解度が深まっている。コロナ禍で来訪者も少ない中、11月に小学生が訪れ「町探検インタビュー」で利用者は玄関ポーチでインタビューに答え喜ぶ姿が見られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区民生委員の方に入居状況や空き状況をお伝えしグループホームできる認知症ケアの支援をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現状として利用者のご家族様への近況報告と行政には入居状況と平均介護度・日常生活状況・行事等の報告となっている。	新型コロナの影響で書面での会議とし、メンバーには利用者状況や日常生活・活動状況、職員研修・事業所取り組みなどの報告を行い、意見を求めている。職員へはコロナ禍での支援に労いの声が聞かれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町行政、住民課との方々に相談、指導、助言等をいただくなど連絡を行い、事業所の取り組み方を報告している。	町の担当職員からは運営推進会議のメンバーとして助言をもらい、地域包括支援センターとは冬期間利用などの紹介があり、日頃から協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	外出や気分転換したい時等は利用者様の生活背景を観察把握し、適切な声かけを実施し鍵を掛けないよう見守りをしている。また、職員全員が身体拘束の理解をしている。	身体拘束委員会を設置して3ヶ月毎に開催し全職員で共通認識を図っている。家族等の同意を得てセンサーマット使用の方もおり、チェックシートで確認し時間を決めてマットを外すなど全員で話し合い工夫を重ねている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高島町高齢者虐待防止連絡会に参加し、その時の資料があり、虐待の種類など定期的に勉強会を実施し知識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度を利用されている入居者様はいらっしゃるが資料をもとに知識、理解を深めていく機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書の重要事項説明書の内容を読み上げ同意を得ている。不安や疑問点があれば説明も実施している。また、個別に相談を受けるなどして、安心していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を気軽に発していただけるように”意見箱”を設置している。入居者だけではなく、御家族様に面会時、利用者様の近況情報などの話す事になっている。現在はもも太郎さん便りにて報告している。	出来るだけ利用者からの食べ物の希望を反映させ提供している。家族等へは毎月の便りに生活の様子と本人の写真・担当者から手紙を沿えて報告し、要望や意見なども電話で聞き取り信頼関係を築いている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例のミーティングとユニット会議を実施し、職員同士何でも話あえる環境で自由に意見をだし、意見交換をして聞く機会を設け運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、主任は職員と常に話合える環境が確立されており、施設全体の状況の把握を行っている。また、管理者は職員の個人面談等で職員の意見を反映し環境、条件等の配慮するようにしている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTを活用してできる範囲とできない範囲を明確にしケアの統一をできるように実施している。今年度は社外の研修は難しいが介護技術研修会を設ける等実施して知識を高めている。	今年度は内部研修に力を入れ、外部講師による様々な介護技術研修を行いスキルアップを図っている。また、人事考課制度を取り入れ職員は個人目標を立て管理者と面談・評価して達成度を確認し、処遇にも反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業との交流はできない年度でもあり、町内の管理者等に確認し情報得て自施設に活かしている。	町のグループホーム3事業所の管理者は日頃から連絡を取り合い連携している。コロナ禍の対応や防災・利用者の空き具合などの情報交換を行い、サービスの向上を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時、現在の生活の様子や昔から行ってきた事、これからも続けていきたい事を聞き、同じ生活ができるよう提案している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には小さな事でも話していただけるように心掛け関係を保っている。話をする事で本人の情報を共有できる。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様から話を聞き、本人に合った支援を提案している。どちらかの意見に片寄ったものではないよう対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアを実施する時は、声掛けを実施し出来る事はご自分で実施していただいている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会のご遠慮しており、現在の状況を毎月の「もも太郎さんたより」を発行し、さまざまな事も記入してお伝えしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の昔の写真などを拝見し馴染みのあった人や場所等を見て思い出していただいている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席に配慮しテーブルのレイアウトも実施し孤立がないよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された方に電話で連絡を実施している。再入居等の話をさせて頂き支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の表情や行動から希望や意向を把握できるよう職員間で記入する共有ノートを作成し検討している。	入居前の面談で自宅の様子やこれまでの暮らし・続けていきたい事などを聞き取り意向を把握している。食事摂取の困難な方に家族からの声がけで食べられるようになるなど、日々の気づきを全職員で共有し思いに沿った支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査で分からない部分は、御家族の方に再度確認し日常の会話から情報を得ている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる限り在宅での生活スタイルを崩さないように実施している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議のカンファレンスで気になった事、状況変化などをまとめ以前のプランを継続するか等御家族様との話し合いでプランに上げていく。	利用者・家族等の情報を基に3ヶ月毎にユニットの職員で話し合い、毎月モニタリング（効果・観察）を実施している。家族等へは意向を聞きながらプランを説明し、笑顔で自分らしい生活が出来るよう本人本位を大切にしたりしたプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入している事をカンファレンスの場で共有し、見直し実践している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>現在は地域との交流もできなく本人様のできる事を編み物等の作品を作成し展示して頂く事などを実施している。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期受診、往診時に先生宛に現在の状態を記入した内容を事前にお渡し確認していただき、薬の調整等をお願いしている。</p>	<p>毎月往診してくれる内科協力医を全員がかかりつけ医とし、事前に利用者の状態についてファイルで確認してもらいスムーズな受診に繋げている。急変時はいつでも連絡して指示を受けられる態勢にある。他科受診は原則家族同行とし、受診結果や薬の変更の情報をお願い共有出来るようにしている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員の常勤はなく施設職員での対応となるが、利用者様の状態変化があれば即、主治医に連絡のツールをもっている。適切な指示を頂いている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院されている病院の相談室や連携室、担当看護師に連絡を実施し情報交換を実施している。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>プラン作成前、ご家族様が来所された際、現在の状態と延命の有無を説明し施設側の支援についてご理解を得るようにしている。また、状態変化があれば御家族様に来訪していただき説明を実施し記録に残している。</p>	<p>入居時、指針に基づき重度化した時の支援について本人・家族等に説明し理解を得ている。重度化の判断は食事が摂れない・点滴が必要になった時として状態の変化に応じて医師の判断のもと家族等と話し合い、支援方法を決めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDが施設にある為、施設内で使用方法について研修を実施している。定期的に避難訓練も実施している。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定避難訓練時消防署員より助言、アドバイスを頂き参考にしている。	8月に火災・水害、12月に夜間想定火災避難訓練を行っている。初期消火、職員招集や地域への応援要請、避難場所への誘導や経路・移動手段等様々な場面を想定し、備蓄・備品を確認して利用者の生命を守ることを第一に考え災害に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の生活歴を熟知した上で、守秘義務を守り声掛け対応を実施している。	一人ひとりの思いや生活歴、出来ること・出来ないこと、日々の関わりの中での変化や気づきを「青いノート(共有ノート)」に記録し共有している。利用者との会話では相手に尋ねる姿勢で話しかけ、役割の仕事をしてもらった時のお礼の言葉や次もお願いするなど意欲に繋がるよう声かけをしている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が常に自分自身の希望を表現をできるように声掛けをしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が自由に過ごせる様に個人のペースに合わせて生活ができるように支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望に合わせた洋服選びを心掛けている。希望に合った散髪も出来るように支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食べ物を聞きながら、食べたいメニューを聞いたり、作り方を教わりながら食事を調理しています。できる方は食器やお膳ふきを手伝って頂いています。	毎日ホール入り口にメニューを掲示し、食事担当職員が時には利用者から作り方のコツを聞きながら調理し、器や盛り付けも工夫して食事が楽しみとなるようにしている。食器やテーブル拭きなどを手伝ってもらい、また週に一度おやつ作りの日を設け、自作のおやつを食べ美味しいと皆で喜んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事量と水分量を毎日チェックしており、個別援助を実施しています。また、嗜好を取り入れながら栄養バランスも考えながら提供しています。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は就寝時にお預かりし除菌洗浄。自歯の方は食後歯磨きを実施して頂き、必要な方には職員が付き添い支援している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄を支援し、必要とされる方には排泄パターンやその時の状態を把握して、その人に合ったトイレ誘導を実施している。	自立の方も多いが排泄チェック表でパターンを把握し朝の時間や食後・おやつの時などに声がけてトイレでの排泄を促している。プライバシーに配慮しながら見守りや介助を細やかにを行い自立に向け支援している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて把握し食事には乳製品を提供したり、往診の主治医の先生により必要であれば下剤にて排泄調整を実施している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1人1人に声掛けし入浴を促している。心疾患のある方には、半身浴を行ったり健康状態に合わせた入浴方法にしている、また入浴剤を利用し気分を変えていただいたりしている。	利用者の希望に沿いおおよそ2日に1回声掛けし入浴を促している。毎回お湯を入れ替え、入浴剤で体を温めゆったりとした中で本音が聞けることもある。介助や手すり・滑り止めで安全に配慮し、入浴後のジュースで水分補給して爽やかな表情となっている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、本人の希望に合わせてホールや居室で寛いで頂き、夜間なかなか寝付けない利用者様にはホールにて話を聞いたり暖かい飲み物を提供し入眠を促している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後に届く薬は各利用者様のケースファイルにて職員が目を通す事ができるようになっている。薬が変更された時には申し送りを実施し状態の記録を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おり紙・トランプ・スクラッチアート等を準備し常にご利用者との会話を多くするよう心掛けている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は散歩やドライブができなく利用者様の意向・希望に沿った支援ができていない為、代わりにレク活動や写真等を活用しお過ごし頂いている。	コロナ禍のため季節のドライブ外出や個別の支援は自粛したため、事業所敷地内での日光浴やお茶飲み会は数少ない外気と触れる機会となっている。スクラッチアート(なぞって削る絵)などのレクリエーション活動や利用者の若い時の写真を見て昔話をする事などで気分転換を図っている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状態に応じて所持されているが、基本的には持ち込んで頂いていない。必要であれば職員が買い物実施し立替にて対応している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会も制限され精神的に安定していない利用者様には必要に応じて手紙の記入の支援や投函を実施している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のホールには季節感のある花を飾ったり、芳香剤等を置き、リラックスできるように配慮している。利用者様が作成した作品も飾っており、居心地よく過ごせるよう工夫している。	食事時にテーブル上の利用者間パーティション設置や温・湿度管理、換気など新型コロナウイルス予防対策を行っている。玄関やホールには季節の花や観葉植物を置き、大きな水槽で金魚の泳ぐ姿も見られ、心地よい雰囲気の中で利用者が寛げるスペースとなっている。トイレや風呂場もわかりやすく、常に清潔な共用空間となっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	歌番組が好きな方には、録画したものをかけたりトランプ・オセロ等好きな方は職員や、利用者様同士で楽しんでいます。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人がご自身のものと認識している衣類や、家具等をもってきていただくよう持ち込みをお勧めしている。思い出に残っている写真などを飾っていただいている。</p>	<p>ベッドや洗面台・エアコン・テレビ・ローチェストなどが備え付けてあり、なじみの椅子やこたつ、着慣れた衣類、整理ボックスなどを持ち込み利用者が暮らしやすい居室作りをしている。家族の写真や創作品などを飾り、好きなテレビ番組を見たりしながらゆっくり過ごせる居室となっている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの入室表示や居室扉の表札、洗面所には自身の物に名前を付けたり工夫している。手すりの設置、居室内での家具の配置等で自立した暮らしができるよう配慮している。</p>	/	/	